

消防 **団** ネット in 川口

平成 29 年 7 月 31 日

第 51 号

KAWAGUCHI SHOUBOUDAN NEWS

発行者 川口市消防団活性化対策推進本部

消防団長 金子 利夫

発行所 川口市消防局消防総務課消防団事務局

電話 048-261-8102

支団紹介

5 支団の紹介です

第 5 支団第 2 分団 分団長 林 智巳

第 5 支団は芝地区を中心に活動しています。

地域的に会社勤めの団員が多く、時間帯によっては即時の活動が難しい所もありますが、団員の意識は非常に高く気概に満ちています。

悩みの種は他の支団と比べると団員数が少なく、支団を分けての活動が難しい事です。その分、団員の結束は強く頼もしい限りです。

消防活動以外でも団員同士でレジャー活動も活発に行われ、親睦を図っています。公私ともにまとまりのある第 5 支団であります。



第 10 支団第 2 分団分団長送別会

第 10 支団第 2 分団 団員 小谷恵三

去る 4 月 23 日、第 10 支団第 2 分団の矢作悦一元分団長の送別会が、第 2 分団だけでなく、旧鳩ヶ谷市消防団第 1 分団のメンバーであった第 10 支団第 1 分団員も駆けつけ、盛大に執り行われました。

湿っぽい雰囲気もなく、いつものように笑いの絶えない和気藹々とした空気の送別会となりました。

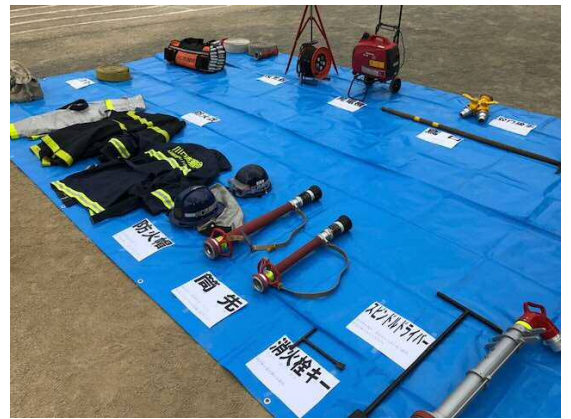




矢作元分団長は 36 年の長きにわたり消防団活動に従事し、我々後輩に指導をいただきました。また川口市と鳩ヶ谷市の合併に伴う消防団再編の困難な時期に分団長を勤め、万事川口市になり戸惑う我々を導いてくれたこと、心より感謝いたします。今後も矢作元分団長の教えを守り、市民の安全のために消防団活動を続けていく決意を新たにしました。長い間お疲れ様でした。

安行東小学校消防団出前授業

第 8 支団第 2 分団 団員 中田淳夫



平成 29 年 6 月 9 日(金)に安行東小学校にて、消防団出前授業を行いました。

4 年生 4 クラスを、前半 2 クラス、後半 2 クラスの 2 回に分け、第八支団より会田支団長含む団員 4 名と、金子消防団長が指導にあたりました。

まず、金子団長より、川口市消防団について、消防団組織のなりたち、団員の身分などについてお話をいただきました。

消防団が現場へ到着するまでの時間についての質問があり、職場から消防小屋を経て現場へ行くことについての説明もありました。

続きまして、2 班に分かれ、消防車両についての説明と、団員が使用する機材について説明を行いました。 蔦口の使い方や、防火衣について興味を持っていたようでした。



その後、各クラスの代表の生徒に、団員の補助の下、放水中の筒先をもってみる体験をしていただきました。水の勢いに驚いていたようでした。

全体を通して多くの質問をいただき、消防団活動について興味をもって触れていただく良い機会になりました。

5月20日、芝の川口市消防局にて団員の消防技能の向上を目指す、平成29年度の普通救命講習と定期機関講習がそれぞれ行われました。救命講習では、指導員の資格を持つ団員が中心となり、AEDの使用方法や胸骨圧迫、人工呼吸法などについて実践を交えて講習を行います。機関講習では炎天下の中、川口市内に現在10基残っているという、丸ポストのように見かけなくなった、懐かしい旧型の地上式消火栓も使った訓練を行いました。代表者は各分団に戻って、技能と士気を高めるべく団員に伝えて頂きたいと思います。



荒川左岸水害予防組合～水防演習～



6月24日、川口市・蕨市・戸田市と各3市消防団、戸田市消防本部、埼玉県防災航空隊、戸田市建設業協会、荒川上流河川事務所、蕨警察署の合同による水防演習が、今年担当となる戸田市の彩湖・道満グリーンパーク内で行われました。3市の市長もご出席の中、川口市消防団は、金子団長以下、副団長、各支団長及び支団の代表2名ずつが参加致しました。

近年多発する、想像を絶する豪雨によって、土砂崩れや河川の氾濫など、自然災害による甚大な被害が頻繁にみられます。よってこのような広範囲での水防演習は、より重要さを増します。梅雨晴間で蒸し暑い中、ライフジャケットを着ての土嚢積み作業は、正直ちょっと過酷なサウナスーツ状態でしたが、3市の団員一丸となって真剣に取り組み、あっという間に積み上げるなど、荒川水系の隣人同士、協力して郷土を守る思いに溢れています。



来年は川口が担当です。しっかり頑張りましょう。



訓練想定の概略：南方海上に発生した台風 5 号は、梅雨前線を刺激しながら、前日関東地方に接近、24 日(訓練日当日)未明、埼玉南部が暴風域に入った。23 日午後県全域に大雨洪水警報発令、市は災害警戒本部を設置。同日夕方、荒川上流河川事務所から水位が「氾濫注意水位」に達したとの一報に、水防団らは堤防巡視を開始。その後も水位が上昇、市は災害対策本部に切り換えた。水位は「避難判断水位」まで上昇、7:32 市は「避難準備・高齢者等避難開始」を発令、非難を促す。その後も雨が降り続き「氾濫危険水位」に達し、8:55「避難勧告」を発令。尚も荒川の水位は上昇を続け、9:30 頃、彩湖・道満グリーンパーク付近のり尻から漏水との通報が入る。漏水・越水防止の為、水防団らは直ちに水防活動を開始。他、市内では豪雨による内水被害が生じ、水難者多数との情報を確認。直ちに救助活動を開始した。

主な実施訓練内容：情報収集訓練並びに、準備・越水防止(土嚢)・洗堀防止(シート張)・漏水防止(月の輪工・釜段工)・崩壊亀裂防止の各水防工法。ヘリやボートを使つての水難救助訓練。

みんな知ってる？

第 11 支団第 3 分団 部長 加藤耕誠

「災害は忘れたところにやってくる」災害大国の日本ですが、実は日本人の持っている民族性や秩序ある精神こそが、災害後の被害を最小限にしていると思う、あるエピソードを私なりに短くまとめてみました。

「ベトナムが泣いた、日本の小さな少年のサムライ精神」



話は東日本大震災、Ha Minh Thanh さんという在日ベトナム人の両親のもと日本で生まれ帰化した警察官の体験談です。彼は苦学して大学院で博士号まで取り両親の苦勞から「ひとに尽くしたい」と警察官になりました。震災直後、福島第一原発から 25 キロ離れた悲惨な状況の中に派遣され、悲しむ間もなく、埋葬と食料配給の任務に就きました。

震災 5 日後の 3 月 16 日夜、寒い校舎で配給をしていると、T シャツに短パン姿で配給の最後尾にいる少年を見かけました。配給がいきわたるか心配になった警察官は、自分のコート少年にかけて話しかけると、少年もポツリと話し始めました。

聞けば彼は 9 歳、小学校で体育の授業中に震災にあい、近くで仕事をして

いた父親が心配になって学校に駆け付けたところを車ごと津波に襲われ、それを窓から見たという。母親も、幼い弟妹も家が海岸近くなので、行方がわからない。少年は家族を語りながら、涙をにじませ、寒さと心細さと悔しさで声が震えていたといいます。

警察官はお腹を空かせた少年に、当然喜んでくれるだろうと自分の食料パックを手渡しました。でもその瞬間、警察官が目にしたのは、受け取ったパックをトコトコと配給箱に置きに行く少年の姿でした。唾然とした警察官の目を見て、戻ってきた少年は、「僕よりももっとお腹を空かしている人がいるだろうし・・・あそこなら平等に配ってくれるから・・・」。

警察官は忘れかけていた熱いものがこみ上げ、涙を見られないように少年から目をそらしました。心細く困難に耐える9歳の少年に宿る、思いやりと自己犠牲の精神。ベトナム人の彼は、悲劇と苦難のもとでも失われぬ、けなげな日本人の美德と負けない力をひとりの少年の小さな行為から学んだと同時に、日本人は偉大な民族であり、必ずやより強く進化再生することに違いないと確信したといいます。

この感動のエピソードを、彼はベトナムの友人に話し、それがベトナムの新聞 Viedao 紙で取り上げられると話題となり、決して裕福とは言えないベトナムで、多くの義援金が集まったといいます。私はここでもう一つ気付くことがあります。少年は果たして飢えるのか？いえ彼も少し我慢すれば、飢え死はしないだろうという国家や社会に対する信頼があってこそその行為だと思います。将来の希望がない、国家社会が貧困、無秩序、無教育など、国家が国民を守ってくれなければ、無道徳になるでしょう。社会や周囲への信頼が秩序を作ります。まさに消防の精神だとは思いませんか？



訃報 心からお悔やみ申し上げます

第4分団第2分団 分団長 宇田川 良一氏

第5分団第2分団 部長 岡田 博文氏

入退団者紹介

○平成29年3月31日退団者

- 1 7-1 鬼沢 ひろみ (団員)
- 2 7-2 磯野 加奈子 (団員)
- 3 7-3 山岡 康男 (副分団長)
- 4 7-4 鈴木 啓修 (部長)
- 5 7-4 守谷 求 (分団長)
- 6 9-1 藤波 朋廣 (団員)
- 7 9-3 国本 唯誠 (団員)
- 8 10-2 矢作 悦一 (分団長)
- 9 10-3 石田 一 (団員)
- 10 副団長 大谷 富夫

○平成29年4月1日入団者

- 1 2-1 梶田 浩一
- 2 2-1 梶田 祥平
- 3 2-1 佐野 暢彦
- 4 2-2 木本 健太
- 5 6-1 佐藤 僚太
- 6 6-1 本山 隆継
- 7 7-3 横山 淳之
- 8 7-3 野田 裕貴
- 9 7-3 長瀬 祐一
- 10 7-4 横山 敦史
- 11 10-2 石塚 和男

新入団員紹介

新入団員の皆様を順次紹介しています

第3支団第1分団 高村侯臣（たかむら よしふみ）

消防活動に興味があり、入団しようと志望しました。震災以降、災害に対する意識が少しずつ高まっている中で、身近に起きる危機に対し少しでも自分の力が役に立つよう、学んでいきたいと思っています。

学生が本分あるため、時間の制限はありますが精一杯やっていきたいと思えます。

まだまだ慣れず覚えることも多いですが、1つ1つ覚えて早く消防団の一員として現場で動けるようにしたいです。

これから一層頑張っていきたいと思えます。



第3支団第1分団 森谷涼（もりや りょう）



平成29年1月付けで第3支団第1分団に入団しました。災害について興味があり、災害対策を考えるには、直接現場に立って経験することも必要だと思ひ、消防団に入団することを志願しました。

消防団に関してほとんど知識がない状態でしたが、少しずつ親切に指導していただいています。

大学に通ったり、バイトもしているのですが、全ての行事に出られているわけではないですが、充実した日々をおくれていると感じています。

これからも少しずつ消防団について知っていければいいなと思っています。

.....

【編集後記】

第5支団第1分団 団員 宇野 利晴

記事の作成や写真の提供、取材への協力など今回も消防団員のみなさまに快くご協力いただき、無事に団ネット第51号を発行できました。今後の広報誌作りに活かしてまいりますので、読者のみなさまのご意見・ご感想を是非お聞かせください。よろしくお願ひいたします。

次号は9月下旬 発行予定です

